

第2章 普及活動

1. 排出放射性物質影響調査研究情報発信活動

青森県からの委託業務「排出放射性物質影響調査」によって実施されてきた調査研究の内容や得られた成果等について、県民に対面で説明する成果報告会と出前説明会を実施するとともに、インターネットやパンフレット等の媒体を用いて情報発信した。

1.1 成果報告会

成果報告会では、人体内代謝実験調査で進めている人体内での放射性炭素・トリチウムの動きに関する調査内容及び結果について「食べ物から被ばくする！？ ～体内に入った放射性炭素からの放射線～」と題して、また低線量率放射線に対する分子細胞応答影響実験調査で行った低線量率放射線が肝臓に与える影響について「放射線とメタボ ～放射線のマウス肝臓への影響～」と題して報告した。

開催地は、六ヶ所村、青森市、八戸市、弘前市で、参加者数はそれぞれ 82 名、62 名、83 名、51 名であった。

それぞれ、六ヶ所村では竹井泰孝氏（川崎医療福祉大学 准教授）、青森市では石川和男氏（社会保障経済研究所代表 政策アナリスト）、八戸市では中川恵一氏（東京大学医学部 准教授）、弘前市では塚田祥文氏（福島大学環境放射能研究所 所長）の基調講演を実施した。また、六ヶ所村、八戸市で開催した成果報告会では、先記 2 題の成果報告に加え、公益財団法人日本海洋科学振興財団から「六ヶ所村沖の流れについて」の報告を行った。

1.2 出前説明会

出前説明会は、団体等からの働きかけにより連携して実施する「依頼・連携型」、及び大学祭等のイベントに出展して実施する「イベント出展型」に分けて、実施した。なお、成果報告会の地理的補完として六ヶ所村及び主要 3 市を除く地域において参加者を募集して公民館等の小施設で実施する「募集型」に関しては、黒石市、五戸町で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止とした。

依頼・連携型の出前説明会の実施回数は 14 回、参加者数は計 491 名であった。実施先は、青森県立六ヶ所高等学校、上十三法人会六ヶ所支部、むつ市役所等であった。

イベント型の出前説明会は、青森大学、八戸学院大学、弘前学院大学、六ヶ所村において実施した。また、新たに、次世代を担うより低年齢層への説明の機会を増やすため、六ヶ所村発明クラブにおいても説明会を実施した。霧箱やスパークチェンバーを用いて放射線に関する基礎知識を解説するとともに、パネルを用いて調査研究成果について説明を行った。実施回数は 5 回で参加者数は計 738 名であった。

合計で出前説明会の開催数は 19 回、参加者総数は 1,229 名であった。

1.3 ホームページの制作・運営管理

排出放射性物質影響調査の調査内容や成果、情報発信活動で実施している情報を広く一般に提供するため、ホームページ（<http://www.aomori-hb.jp>）を通じた情報発信を行った。ホームページへのアクセス数は約 14 万 5 千ページビューであり、大幅な増加を示した福島原発事故直後に比べると落ち着いてきているが、事故前との比較では依然として多く、福島原発事故を契機とした放射線や放射能に対する関心は未だに高いと考えられる。

今年度は、用語解説ページの修正・更新、研究の進捗に応じた研究紹介に関するページの更新、情報発信活動で実施した成果報告会や説明活動等に関する情報や発行物等の掲載など、ホームページ内容の更新作業を行った。また、新たに作成したリーフレットや更新した放射線の基礎知識パンフレット等を掲載した他、青森県内外を問わず放射線に関する質問や資料請求の問い合わせ等に対応した。

1.4 印刷物の作成

これまでに行った影響調査の成果を分かり易く簡潔にまとめたリーフレット 2 種類を作成した。今年

度は、土壌から牧草への放射性セシウムの移行低減化に関する調査結果を解説した「土壌中の放射性セシウムの牧草への移行低減化に向けて ―セシウムの移行に寄与する土壌の性質の評価―」、母体内における低線量率放射線被ばく影響実験調査で行った低線量率放射線をメスマウスの妊娠期に連続照射して胎仔や仔マウスの影響について調査を行った結果を解説した「母体内における放射線被ばくの影響を調べる」を作成し、成果報告会、出前説明会等で配布した。

また、成果報告会と出前説明会の広告用に新聞折り込みなどで配布するチラシの裏面を利用し、影響調査で得られた成果の一つである低線量放射線生物影響実験調査（継世代影響調査）に関する調査結果について簡潔に記載し、青森県内で配布した。

2. その他の活動

六ヶ所村内の小学生等青少年を対象に、実験・体験を通して自然科学に興味を持つきっかけを作る活動を行った。

①六ヶ所産業まつり出展（令和元年 11 月 2、3 日）

テーマ：「魔法の液体を作ろう」

（加熱すると固まり、冷やすと液状化する
液体作り）

参加者：約 400 名

②冬期理科教室（令和 2 年 2 月）

テーマ：「体験！光の不思議な世界！！～光ファイバーや万華鏡たち～」

参加者：村内全小学校から 5、6 年生 計 143 名（引率含む）